

『外来がん患者の日常生活行動支援ガイド』 患者の目線に立った具体的 内容で、学生にわかりやす いガイド

編集：小野寺綾子

定価：2,520 円(本体 2,400 円＋税 5%)

発行：医学書院

TEL：03-3817-5657



臨地実習の一環として、学生が受け持ち患者の退院指導を行うことがある。学生は調べてきた生活上の注意点などを一生懸命説明するのだが、はたしてそれが患者にとって有用なものとなっていたかは疑問が残るところである。また当面の生活に適応しても、外来で治療を継続するがん患者は新たな困難や不安に遭遇することになる。

本書は、さまざまな治療過程にある外来がん患者を視野におきながら、日常生活という看護本来の視点から支援するためのガイドブックである。神奈川県立がんセンターで実際に使用されていた退院指導用のパンフレットを“退院後に外来治療を継続する患者・家族が対処できる日常生活行動の内容になっているか”という観点で見直され、編集されたものである。執筆者は、外来や病棟でがん患者の相談を受ける機会の多い認定看護師や経験豊富な看護師を中心とした人々である。ユニークなネコを中心としたイラストが親しみやすく、またポイントをつかみやすいように工夫がなされている。

本書は随所に、学生が文献を調べても見つけない、退院指導の際にスタッフが口頭で補ってくれるような内容が記載されている。例えば、「排泄する」という項目に、便秘を予防するための食事の工夫が説明されている。学生は、「繊維質の多い食物を勧める」と教科書の内容を提示してく

るが、がん患者の場合それでは不適切なことがある。本書には、便秘解消のために食物繊維の多いものを食べる際の注意として、「腫瘍や手術後の癒着が原因で腸管が細くなっている場合、(中略)繊維質の食品は腸管を通過しにくくなり腸閉塞の原因になるので注意が必要」というように、個別の病態を踏まえた解説が加えられている。また、生活行動に障害をきたす要因とその理由が説明されている。根拠を理解するために学生の学習には欠かせない部分であるが、簡潔な説明に徹したためか、ややわかりにくい箇所があった。しかし、「ワンポイント」のアドバイス、「これも教えて!」「こんな時には病院に連絡を!」や各項目の最後にある「Q & A」に記載されている内容は、日頃から患者の声を聞き、患者の目線に立って生活の工夫点を考え、積み上げてきた看護師の経験知として読みとれるものである。さらに、「看護師のためのアドバイス」は患者・家族の置かれた状況や思いを先輩看護師が代弁しながら、ケアの方向性を示してくれるものになっている。

個別性が表れる生活行動に対して、共通する具体的支援内容を記述する困難さを思いつつも、さまざまな苦痛や困難を抱えながら生活するがん患者に、寄り添っていこうとする看護の姿勢を一貫して感じとることができるガイドブックである。